

町民の広場

私が町長だったら



大崎第一中学校3年
東中組自治公民館
北村雅美



私は、大崎町に生まれ、今までここで育ってきました。私は、この町が好きです。理由は、花や緑がたくさんある自然あふれる町だからです。大崎町ではゴミ処理やリサイクル活動に特に力を入れています。だから、私たちの家庭や学校などでもゴミの分別を細かに行っています。

地球的な規模で環境問題が取りざたされる今日、私はこのことをとても誇りに思います。しかし、まだまだ不十分なものが多いのも事実です。

私は、この度この原稿依頼を受け、これまで私たちが取り組んできたことをもとに、「町長になったら」という視点で考えてみました。

昨年の夏、私たちの自慢である白砂青松のくにの松原海岸が汚れてきていることを知りました。その頃ちょうど生徒会の方でボランティア活動をしよという動きがありました。私はいいチャンスだと思い、海の清掃活動をしたいと顧問の先生に伝えました。そして、去年の夏に生徒会執行部と本部で海岸の清掃活動を実施しました。ゴミは予想以上に多くて、30分くらいで7袋集まりびっくりしました。しかし、ゴミの多さへの驚きよりも自分たちの郷里の海岸がこんなにも汚れていることがショックでした。また、今まで汚くなってきていることを知りながら何も行動を起こさそうとしなかった自分が情けなく感じられました。

その日は、人数もゴミ袋も足りなかつたので、今度は大崎町内の中学校の生徒会に呼びかけ、それに賛同した他の2校と協力して海岸清掃活動をする

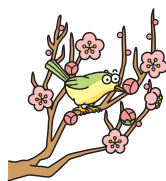
ことになりました。当日は、参加者数60人で40袋のゴミが集まりました。みんなが黙々とゴミを拾っている姿を見て海をキレイにしようとの輪が広がったような気がしました。

この経験を通して、人と人がつながり、同じ思いを持って活動していくことの大切さを学びました。

町づくりも同じだと思います。例えばお年寄りの方たちと子供たちが一緒に参加できる日を設けたら、それについての理解が深まるとともに、お互い交流を深めることができます。

大崎第一中学校では、あいさつ運動にも力を入れています。私が町長になったら、こうした小さな一つひとつの活動を広げたり、福祉にも力を入れたりして、人と人がつながり合う町づくりを進めていきたいと思っています。

学校も地域も町もみんなが気持ちよく住むことができ、この町に生まれてきてよかったと思えるそんな郷里にするために。



昨年を振り返ってみれば、「偽」の一字で表されるような年であった。一昨年からの偽装は取りざたされたが、年明けからの食肉の偽装に始まり、賞味期限・消費期限の改ざん、貼り替え、産地偽装等あげればキリがない。

その度に行われる会社役員の釈明会見、それをマスコミが取り上げる度に、またかと気分を悪くしたのは皆が記憶に新しいところだと思う。わからなければ良いという「事なかれ主義」が生んだ産物ではないだろうか。あまりにも消費者を小馬鹿にした行為である。また、昔から利益優先を前面に打ち出した会社が多いことである。日本国民はもっと怒るべきではないだろうか……。

「おおさき議会だより」106号をお届けいたします。今年一年もみなさまに心待ちしていただけたような「議会だより」作成に努めてまいります。

寒さ厳しいおり、お身体をご自愛ください。

(広報編集委員 諸木)

発行責任者 大崎町議会議長

阿野 二郎